

英二が、はじめてカメラマン助手として会社に入ったとき、空中きつえいが必要でしたが、それは大変危険きけんだったので、カメラマンたちはみな逃げてしまいました。そのとき「ボクにやらせて下さい。」と申し出たのが助手の英二少年でした。英二が、みごとに成功させたので、いっぺんにカメラマンにおされたという話  
がのこっています。

円谷英二が特殊とくしゆきつえいの技術を開発しようと思つたきつかけは、なにも怪獣じゆう映画をつくりたかつたからではありません。画家がカンバスの上に、絵筆で表わしていくように、彼も映写の技術を思いきり使つて、自由に、思うとおりに、場面場面を創造そうちゆうしてみたかつたからです。

ひろしげ 広重の「江戸名所図絵」に両国橋の夜景やけいをえがいた作品があります。彼はこのふんい気や情景じやうけいを映画で表わしたいと思つて、さまざまな工夫をしました。

その時、日本ではじめて、ホリゾン背景はいけいといわれる方法や、透視とうし法によつてセツトやミニチュアが作られました。